

CONTENTS

「証券市場の機能と仕組み」及び「産業分析と企業分析」小冊子申込書(無料)

第1章 債券分析

[1] 債券の特性	2	2 . フォワード・レート 49	
1 . 債券の意義 2		3 . 試験問題の解き方 52	
2 . 債券投資のリスク 2		4 . 将来のスポット・レート・カーブの変化 60	
3 . 債券の特性 4		[5] 利回りの期間構造理論	70
4 . 債券の種類 4		1 . 利回り曲線 70	
5 . リスクとクーポン・債券価格の大小関係 7		2 . スポット・レート・カーブの形状 70	
6 . 債券の種類とキャッシュフローの発生点 8		3 . 利回りの期間構造理論 72	
[2] 利回りと貨幣の時間価値	10	[6] パー・レートとスワップ金利	76
1 . 貨幣の時間価値 10		1 . パー・レートとスポット・レート 76	
2 . 複利利回りと将来価値 10		2 . パー・イールドとスポット・イールドの関係 79	
3 . 割引率と現在価値 12		3 . スワップ・レート 80	
4 . 終価計算と現価計算 13		4 . スポット・レートの推定方法 84	
5 . 複利の回数 18		[7] 価格・利回り曲線	86
6 . 単利最終利回り 20		1 . 価格変動リスク 86	
[3] 利回りの種類と債券価格	24	2 . 「価格・利回り曲線」 86	
1 . 投資期間と利回りの種類 24		3 . 「価格・利回り曲線」の性質 88	
2 . 複利最終利回りによる債券価格の計算 24		[8] デュレーションとコンベクシティ	90
3 . 年金現価係数とクーポン収入の現在価値 28		1 . デュレーション 90	
4 . 債券価格と各利回りの大小関係 32		2 . 価格変化額の計算 95	
5 . 内部収益率 34		3 . 事業債デュレーション 100	
6 . 永久債 36		4 . ワーク・シートによるデュレーションの計算 100	
7 . 所有期間利回り 36		5 . デュレーションを利用した予想価格のカイ離 103	
8 . 実効利回り 40		6 . コンベクシティ 104	
[4] スポット・レートと利回り曲線	44	7 . 債券の価格変化の分解 106	
1 . スポット・レートと利回り曲線 44		[9] デフォルト債の評価	110
		1 . 安全資産 110	
		2 . デフォルト債の要求投資収益率 110	
		3 . リスク中立とリスク中立確率 111	
		4 . デフォルト債の評価 112	

[10] 信用リスクと債券格付け	120
--------------------------	-----

1. 格付けの機能と役割 120
2. 債券格付けとその内容 120

第 2 章 企業のファンダメンタル分析

[1] 主要な財務分析指標	128
-----------------------	-----

1. ファンダメンタル分析の重要性 128
2. 資本利益率 129
3. 自己資本純利益率 131
4. ROEとROAの関係式 133
5. 総資本事業利益率の分解 135
6. 売上高マージン率の分析 136
7. 資本効率(回転率)の分析 136
8. 財務安全性の分析 139
9. その他の分析 143

[2] 成長性の分析	144
--------------------	-----

1. 1株当たり利益 144
2. 潜在株式調整後1株当たり利益 144
3. 希薄化調整後1株当たり利益 151
4. 1株当たり純資産 154

[3] キャッシュフロー計算書の分析	156
----------------------------	-----

1. キャッシュフロー計算書の概要 156
2. 営業活動によるキャッシュフロー 157
3. 投資活動によるキャッシュフロー 163
4. 財務活動によるキャッシュフロー 163
5. フリー・キャッシュフロー 164
6. 元本償還能力を見る際に用いられる

キャッシュフロー比率 164

7. キャッシュフローの分析指標 165

第 3 章 株式分析

[1] 配当割引モデル	172
---------------------	-----

1. 配当割引モデル 172
2. 定率成長型配当割引モデル 174
3. ターミナル・バリューを考慮したDDM 182
4. 多段階配当割引モデル 184
5. DDMによるPER評価 187
6. DDMによるPBR評価 189

[2] 株式価値の算定アプローチ	190
--------------------------	-----

1. 3つの評価モデル 190
2. フリー・キャッシュフロー割引モデル 190
3. 残余利益モデル 194

[3] 株式の評価尺度	208
---------------------	-----

1. 株式の評価尺度 208
2. 株価収益率による株式評価 211
3. 株価純資産倍率による株価評価 212

第 4 章 現代ポートフォリオ理論

[1] 投資家の選好	214
--------------------	-----

1. リスクと効用関数 214
2. 効用関数とリスク回避 217
3. 確実性等価額とリスク・ディスカウント額 218

[2] 平均・分散アプローチと無差別曲線	224
------------------------------	-----

1. 投資家の選好と効用無差別曲線 224
2. リスク回避係数とリスク許容度 227

[3] 個別証券の期待値・分散	228
-------------------------	-----

1. 期待投資収益率 228
2. 分散・標準偏差 229

[4] ポートフォリオの期待値・分散	234
----------------------------	-----

1 . ポートフォリオのリスク軽減効果	234
2 . 共分散	234
3 . 相関係数	236
4 . ポートフォリオの投資収益率	238
5 . ポートフォリオの期待投資収益率	239
6 . ポートフォリオの分散・標準偏差	239
7 . 相関係数と分散の関係	242
8 . N個の証券を含むポートフォリオの分散	245
[5] 有効フロンティア	248
1 . 相関係数と投資機会集合	248
2 . 有効フロンティア	250
[6] 最適ポートフォリオの決定	252
1 . 最適ポートフォリオの決定	252
2 . 無リスク証券を含む最適ポートフォリオの決定	253
3 . 有効フロンティア直線	255
4 . 資本市場理論	256
5 . 資本市場線	257
6 . 最適ポートフォリオの投資比率の決定	258

第 5 章 資本市場理論

[1] 市場モデル	264
1 . 市場モデル	264
2 . 期待値・分散の分解	267
3 . 決定係数	269
4 . 市場モデルと分散投資効果	271
5 . 証券特性線	275
[2] 資本資産評価モデル	278
1 . 資本資産評価モデル	278
2 . CAPMによる株式評価	280

3 . ゼロ・ベータCAPM	282
4 . CAPMの利用	284
[3] ファクター・モデルとAPT	286
1 . ファクター・モデル	286
2 . 裁定価格理論	287
3 . APTの均衡価格式	288
4 . マルチファクター・モデルの種類	290

第 6 章 ポートフォリオ・マネジメント

[1] 市場の効率性	292
1 . 市場の効率性	292
2 . 効率的市場仮説の分類	293
[2] アセット・アロケーション	296
1 . アセット・アロケーションの概要	296
2 . アセット・アロケーションの分類	296
3 . アセット・アロケーションの情報の流れ	297
4 . 戦略的アセット・アロケーションの決定	298
5 . リターンの予測	298
6 . マネジャー・ストラクチャー	299
7 . パフォーマンスの要因分析	300
[3] パフォーマンス評価	306
1 . 収益率測度	306
2 . リスク調整後収益率測度	310
3 . 情報比	313
[4] リスクニュートラルと価格	316
1 . 資産の不確実性とその表記	316
2 . 状態価格	317
3 . 資産の現在価値	319
4 . 状態価格の求め方(別法)	320

5. 状態価格とリスク中立確率 322

第7章 試験に出る統計学

[1] 基準値と標準正規分布	326
1. 基準化(標準化) 326	
2. 標準正規分布 326	
3. 標準誤差によるZ値 327	
[2] 仮説検定	330
1. 仮説の立て方 330	
2. 有意水準と帰無仮説の棄却 330	
3. 値と値の仮説検定 331	
4. 仮説検定の2つの誤り 332	

第8章 デリバティブ分析

[1] デリバティブの本質	334
1. 現物取引とデリバティブ取引 334	
2. デリバティブの理論価格 335	
3. 為替先渡取引 336	
[2] 先物取引	340
1. 先物取引 340	
2. 先物価格の決定 344	
3. 先物取引の利用方法 350	
[3] わが国の先物取引	352
1. わが国の先物取引 352	
2. わが国の債券先物取引 356	
[4] オプション取引の内容	360
1. オプションとは 360	
2. オプション取引のペイオフ図 361	
3. オプションの裁定理論 371	

[5] オプション・プレミアム	374
1. プレミアムの構成 374	
2. オプション価格の上限値と下限値 378	
[6] オプションの評価モデル	382
1. 二項分布モデル 382	
2. リスク中立確率を用いるオプション価値 384	
3. ブラック=ショールズ・モデル 390	
[7] オプション価格の決定要因・反応度	394
1. オプション・プレミアムの決定要因 394	
2. リスク・パラメータ 398	
[8] オプションの投資戦略	404
1. ヘッジ戦略 404	
2. オプションと現物の裁定取引 406	
3. オプションと先物の裁定取引 407	
4. コンピネーション戦略 412	
5. パーティカル・スプレッド戦略 415	
6. バタフライ・スプレッド戦略 416	
[9] 金利デリバティブ	420
1. 金利先物取引 420	
2. スワップ取引 421	
[10] わが国のオプション取引	424
1. 株式オプション 424	
2. 国債先物オプション 427	

補章 基礎数学

[1] 計算のルール	430
1. 累乗と指数法則 430	
2. 平方根と立方根及びn乗根 432	
3. 証券分析で用いられる記号 435	

[2] 等比数列の計算	438
1 . 数列 438	
2 . 等比数列 438	
[3] 関数と微分	442
1 . 関数の内容 442	
2 . 微分 450	
付表	456
索引	461